

【長野で二つの聖火】

4月26日午前8時15分、善光寺本堂でチベット弾圧の犠牲者への法要(追善供養)が始まると同時に、善光寺山門から「チベットの聖火」がスタートしました。

そのトーチにはチベットの旗と「HUMAN RIGHTS」(人権)が描かれていました。「チベットの聖火」は、本来予定された経路の善光寺参道を先頭に雪山獅子旗(チベット旗)を中心に、両側から日の丸が守る陣形で、チベット旗の後ろに「チベットの聖火」を配置した3列で行進していたのです。

この様子は、大手マスメディアが無視・サラッとしか扱っていませんが、『桜チャンネル』(注1)が、ネットで配信しています。そして、もう1つの「中共の聖火」は、同時刻「旧長野刑務所跡地」からスタートしていました…。

「チベットの聖火」は、善光寺が「虐殺の弾圧火」の出発地を返上した一対のメッセージ、「世界平和の回向」として、朝6時からの「お勤め」で回向されました。国境なき記者団の「手錠の五輪旗」に匹敵する意志表示として、有志の方々が企画された、「チベットの聖火」だったのです。

「チベットの聖火」は、参道を行進して「虐殺の弾圧火」との合流地点で終了する予定だったのですが、そのまま「虐殺の弾圧火」13番リレーランナー地点に向かって歩道を行進しました。その人数は、「チベットの聖火」の行進に賛同したチベット支援者も加わって100名以上に膨れ上がり、100メートル以上の隊列になっていました。隊列は歩道を2列で整然と行進して目的地点に向かったのですが、14番リレーランナー地点を過ぎたところで、中国人が、畳より大きな五星紅旗を重ね合わせて進路を遮断しました。そしてなんと、隊列の先頭者は金属製の旗竿で頭を殴られ負傷したのです！また、「チベットの聖火トーチ」を持っている人に襲いかかって、彼が避けると今度は肘で殴りかかりました。そこに警官3人が駆けつけ、暴れている中国人を押さえつけると警官にまで殴る蹴るの暴行を働きました！そして「トーチ」を持っている人がその場を離れようとした時、今度は花壇の上に乗っていた中国人の女性が腰を蹴りました。「トーチ」を持っている男性は、“日本人の男が加害者であるかのようにテレビに映像を編集される事”を懸念して、黙って耐えたそうです。これらの模様は、4月28日フジテレビ『特ダネ』で大村レポーターが映像を見せながら解説していましたが、TBSも善光寺山門から3人のテレビクルーが同行取材していたのに、この中国人の一方的暴力行為は報道しませんでした…。

(注1)『桜チャンネル』とは - 総じてリベラルな日本のテレビ局が扱ってくれない題材を扱う、小さなチャンネル局です。
So - TV
<http://www.ch-sakura.jp/> いつものテレビの論調に慣れている人には「違和感」があるかも知れませんが。



(編集部より)

上記のレポートとはあるジャーナリストの方の報告を、纏めたものです。

【桜チャンネルでネット配信している中の善光寺山門からの「チベットの聖火」の行進を『長野で行われたチベットに人権の聖火』として、世界に動画サイトで発信していただければ、在外日本人の名誉に貢献できると確信しています。】

と、最後に書かれているのですが、これだけ日本にマスコミがいるのに、なぜ弱小チャンネルのネット配信などに頼らなければならないのでしょうか???

凄いですね、この世界にアピールできるはずの、日本としての質の高い非暴力行動を「無視」する日本のマスコミって一体・・・(そんなに先頭の「日の丸」がイヤだったんですか?)